

氏名	たに かわ あき お 谷 川 明 男
学位(専攻分野)	博 士 (理 学)
学位記番号	論 理 博 第 1405 号
学位授与の日付	平 成 14 年 5 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 4 条 第 2 項 該 当
学位論文題目	日 本 産 コ ガ ネ グ モ 科 の 分 類 学 的 研 究

論文調査委員	(主 査) 助教授 疋 田 努 教 授 堀 道 雄 教 授 西 田 利 貞
--------	--

論 文 内 容 の 要 旨

コガネグモ科は典型的な円網を張るクモ類で、全世界に広く分布し、約160属2600種が知られている。日本からは24属112種が報告されていたが(八木沼, 1977), 多くの未知種が存在し、また、誤同定の疑いが強いものや所属に問題のあるものも多かった。申請者は、日本産コガネグモ科のクモ類について分類学的再検討をおこない、12属39種について再記載し、29種を新種として記載した。

既知種のうち、ゴミグモ属1種、コガネグモ属1種とムツボシオニグモ属1種の計3種については、従来の同定が誤りであったことを明らかにし、他の既知種に同定しなおして再記載した。また、コガネグモダマシ属4種、オヒキグモ属1種、オニグモ属1種の計6種については、日本における分布を新たに確認して再記載した。さらに、既知種のうち9種について所属する属を変更した。転属した9種の内訳は、オニグモ属からヒメオニグモ属へ移したものが2種、オニグモ属からオヒキオニグモ属へ移したものが1種、*Zilla*属から *Eriophora*属(和名はカタハリオニグモ属のまま変更せず)へ移したものが3種、*Theracantha*属(和名なし)からトゲグモ属へ移したものが1種、オニグモ属からダングラオニグモ属へ移したものが2種である。いっぽう、オヒキグモ属1種とイセキグモ属2種とについて、未記載であったそれぞれの雄を初めて記載し、トリノフダマシ属の2種を日本産既知種の新参シノニムとした。

新種として記載したのは、コガネグモダマシ属2種、ゴミグモ属10種、タカネオニグモ属1種、ムツボシオニグモ属1種、ヒメオニグモ属1種、オヒキオニグモ属1種、カタハリオニグモ属1種、オニグモ属12種の計29種である。これらのうち7種は、従来既知種に同定されていたが、再検討の結果それまでの同定が誤りであったことを明らかにし、新種として記載したものであり、残り22種は新たに発見されたものである。

これらの新知見を加え、日本産コガネグモ科のクモ類について図鑑としてまとめた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

コガネグモ科はコガネグモやオニグモなどの典型的な円網を張るクモ類で、全世界に広く分布し、約160属2600種が知られている。日本からは24属112種が報告されていたが、誤同定の疑いある種や所属に問題のあるもの、未記載種や未知種が多く含まれていた。このような分類の混乱は、不十分な古い記載に基づいた同定が行われてきたことと、信頼できるタイプ標本との比較が十分に行われて来なかったことが原因であった。コガネグモ科のクモ類は非常に広域分布するものも含まれるために、世界各地の博物館に所蔵されるタイプ標本と比較することが必要であった。申請者は、各地の博物館と連絡をとりながら、タイプ標本を借り出して比較することにより、日本産のコガネグモ科各種の分類学的な検討を進めてきた。主要な属ごとに検討を加えていき、この過程で12属39種について再記載を行い、29種を新種として記載した。申請者によって確認された日本産コガネグモ科は28属118種となり、この成果は図鑑としてまとめられている。これらは、これからの系統学や生物地理学、種分化などの研究の基礎となる貴重な業績である。クモ類については生態学、行動学的な研究も盛んに行われており、信頼性の高い申請者の分類的研究はこれらの分野の研究者からも高く評価されている。

申請者の研究は交尾器などの形態学的な比較を行い，形態学的な属・種の分類を確立することに徹している。タイプ標本や原産地の標本との比較を丹念に行なっており，記載論文や分類学的な再検討論文としては非常に高いレベルにある。また，記載に際して分岐解析も行うなど，新しい研究方法を意欲的に取りこんでいる。

なお参考論文は申請者がコガネグモ科以外に研究を進めているアシナガグモ科についての分類学的な論文である。

主論文および参考論文に報告されている研究業績を中心として，これと関連した分野について試問した結果，審査委員は全員一致で，申請者が当専攻の学位審査の基準を満たしているものと判定した。